

河内小だより

平成23年3月18日 No. 51

祝 卒 業

6年生34名の皆さん卒業おめでとう。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

次の言葉を贈ります。未来への道は自らが切り開くしかないことを自覚し、日頃の努力を続け、夢が叶えられることを祈っています。

皆さんは、雑草と呼ばれているたくさんの植物を知っていますね。道ばたや畑や石垣の間などに生えているいろいろな草のことです。人に踏まれても、引きちぎられても、引き抜かれても、時には焼かれてもいつの間にかまた生えてきます。お米や野菜を作っている農家の人や、草花を庭や植木鉢で育てている人にとっては、作物の実りを悪くしたり時には枯らしたりするので困ったものです。しかし雑草たちは、長い間に厳しい生存競争をたくましく生き抜いてきたのです。例えば「根」は、水や栄養分を吸収する植物にとってはとても大切なものです。自分の体を支えるだけでなく太くなった根は、栄養分を蓄えておく役割もあるので地上部が引きちぎられても、焼かれてもまた新しい芽を出すことができます。ひげのような細かな根をたくさんもっているチカラシバという植物は、大人が力一杯引っ張っても、なかなか抜くことができないのでこのように呼ばれています。大地をしっかりと掴んで生きているのです。また高さが1メートル程度のカラスムギの根を全てつなぎ合わせると、新幹線で広島から名古屋を過ぎる距離550キロメートル以上にもなるそうです。「根性がある」「根はいい人」というように、人間にとっても根は大切な部分と考えられています。人間も雑草もとても大切な部分は、見えないところにあるのです。

植物も花を咲かせ種子を残さなければ、命のバトンは引き継ぎません。「実を結ばない雑草はない」と言われるように、日照りや洪水や冷害や火事など厳しい自然現象や、根や葉や茎を食べてしまう虫や動物たち、植物がかかるいろいろな病気などに日々さらされながら、またさらに人間という機械や薬を使って、根こそぎ枯らしてしまう「知恵」をもった脅威をくぐり抜けて生きているのです。しかしこんなこともあります。茎や葉ばかりが繁って芋をつけない「つるぼけ」と呼ばれる現象が、人間に育てられているサツマイモに起こるそうです。興味深いことに、この「つるぼけ」は肥料分が多すぎると起こりやすいのだそうです。豊かな時ほど目標を見失って、ただ漠然と茎や葉ばかり繁らせてしまうのは、人間も植物も同じなのかもしれません。植物の種は、親からたくさんの栄養をもらって根と芽を出します。だんだん成長してくるにしたがって、体中を使って成長に必要な栄養を外から取り入れたり、体の中で作ったりすることができます。今皆さんは、人間社会で独り立ちできるように、未来に向かって体中に栄養、人間の世界に必要な「知力」「体力」「徳育」をたっぷり蓄えておかねばならない時です。自分の夢を実現させるために必要な「知恵」を作り出す為にも、今何をしなければならいいのかしっかりと考え実行してください。